

●この30年ほどで、メールやSNSなど、人と人とのコミュニケーションの手段は多様化しました。しかし、本当に心が通じ合っているかという点、実際には一方的であったり、表面的なやり取りにとどまっていることが少なくありません。こうした問題は、人と神との関係においても同様です。私たちは祈っているつもりでも、心の奥底を隠したままであったり、神の思いを受け止められていないことがあるのです。

●聖書には「聞け」という言葉が繰り返し登場します。それは、私たち人間が神との間に断絶やすれ違いを抱えているという現実を物語っています。

今日の聖書箇所、エレミヤ書7章では、神殿に熱心に集う人々に対し、預言者エレミヤが「聞け、イスラエルよ」と厳しく語りかけています。神殿に頼り、熱心に儀式を行っていながら、日常生活では不正や暴力、弱者への無関心がはびこっている——そうした現実に対する神の告発がここにあります。エレミヤは、荘厳な神殿や形式的な礼拝よりも、神の言葉に耳を傾け、自らの弱さを認め、心を開いて悔い改め、神に真により頼むことの大切さを語っています。

●鳥取でホスピスケアに携わる「野の花診療所」の医師・徳永進さんは、哲学者・鶴見俊輔さんのゼミで学んだ言葉をこう振り返っています。

「コミュニケーションとは、AとBが単に伝え合うことではなく、聞いて、考えて、AはA'に、BはB'に変わる。変わるということがコミュニケーションの大切なところだ。」

神との関係もまさに同じです。神は私たちに語りかけられます。私たちはその言葉を聞き、心で受け止め、自らの在り方を問い直し、変えられていく——これが、神との真の交わりであり、礼拝なのです。

●神は、イエス・キリストを私たちのもとに遣わすという、驚くべき方法で語られました。これは、神が私たち人間の弱さを深く憐れみ、自らその痛みを担い、変わってくださったことのしるしです。裏切りや苦しみの中でさえ、「彼らを赦してください」と祈られたキリストに、神の真実の愛があらわされています。

この神さまとの関係を一方通行にとどめることなく、自分の心の奥にある不安や弱さと向き合いながら、双方向の、深い対話を築いていくことにこそ、私たちを新しい命へと導く道があります。

今週も、神の語りかけに心を澄ませ、主と共に歩み出してまいりましょう。